

第5回森林環境教育・木育のあり方検討会 議事概要

日時：令和2年7月17日（金） 13:00～16:00

場所：勤労者福祉会5階第2教室

検討事項

製材業者が森林環境教育・木育に期待すること及び取組について

子どものころ、木工コンクールなど、木にふれあう機会はたくさんあったが、木に特別思い入れがあるわけではなかった。家業である製材業を継いでからは木が好きだし、木に対する想いもある。このギャップが、今行っている木育活動を何のために行っているのかを考えるきっかけとなっている。

- 全国を見渡してみても、木育を明確な目的意識をもって行っているところは、少ないのではないかと考えている。各地の取組が、共通の目的に向かって行われるようになれば、より大きな力になるのではないか。

熊野林星会では、「木材の価値を上げること」と「将来の担い手の発掘」のために木育活動を行っており、昔のような木材の価値（性能、美観）が見いだされにくい今、それ以外での価値（環境面、物語性）を見出すことを活動の目的としている。

熊野林星会の木育活動では、手弁当でも続けられる楽しさと、行っている木育の効果を調べる必要があると考えている。木育の効果については、三重大学と共に調べている。

熊野木育プロジェクト（産官学民の集まり）において、木育の効果を調査している途中ではあるが、対象者の行動に変化を起こすことを効果的に行うことは可能だと考えている。

地域への定住志向を育むためには「地域愛」と「仲間」が重要と考えており、木育には、それらを同時に育むことができる可能性があると考えている。また、地域教育としての役割をもって木育を行えば、それは、持続可能な地域づくりにつながると考えている。

教育は、その時には効果がでなくても受けた人に何らかの形で残ると考え

ている。森林環境教育や木育の効果がすぐにはでなくても、子どもの頃に森林の体感的な記憶を残しておくことが効果的だと思われる。進学や就職で地元を出ていったとしても、子どもの頃の体感的な記憶が残っていると、地元に戻ってきたり、あるいは戻ってこなかったとしても地元の森林や木とのつながりを保つことができるのではないか。

木育の効果を発揮させるためには、全国いろいろな地域で行われている木育活動のベクトルを合わせることが大切で、そのためには、産官学民での議論が重要であり、当ビジョン作成はそういうことでもあるのかなと思っている。

このビジョンでは、大人への教育も期待したい。特に育児世代へのアプローチが重要ではないか。

費用を補填しすぎると、活動者の想いがかわってしまうかもしれない。有償と無償の活動の棲み分けが必要であるかもしれない。

森林環境教育・木育は、森林や木がテーマや題材の教育であるが、同時に生き抜いていく力を育むことが期待され、県民にとって普遍的な価値を提供できるのではないか。このことは、さまざまな人に取り組んでもらう動機とすることができる。

例えば、野外体験保育は、森林だけでなく海や川やなど自然全体がフィールドなので、当ビジョンにおいては、さまざまな分野との連携が感じられるビジョンであるとよいのではないか。